

なるほど 経済指標

貿易統計

検索

発表機関:財務省(毎月下旬発表)

わが国で国内需要の低迷が続くなか、持続的な経済発展を図っていくためには、アジア地域を中心とした海外需要の取り込みが重要と考えられます。海外市場で引き合いの強いわが国の製品を確認する上では、国内からの輸出動向を観察することが有効です。今回は、そうしたわが国の輸出動向を把握できる指標である「貿易統計」について解説します。

1. わが国経済の輸出依存度の高まり

わが国において、景気が輸出動向に左右される度合いが強まる傾向にあります。こうした点について、輸出依存度(GDPに占める輸出金額の割合)の推移をみると、1994年の9.1%をボトムに、ほぼ一貫して上昇傾向を辿り、ピークの2007年には17.6%まで高まりました。その後、2008年9月のリーマン・ショックに伴い海外需要が弱まったため、2009年には12.6%まで低下したものの、アジアを中心に輸出が持ち直すなか、2010年には15.2%と再び上昇に転じました。

2. 貿易統計とは

貿易統計とは、わが国から海外に売却(輸出)し、あるいはわが国へ海外から購入(輸入)した財貨の金額などを集計したものです。

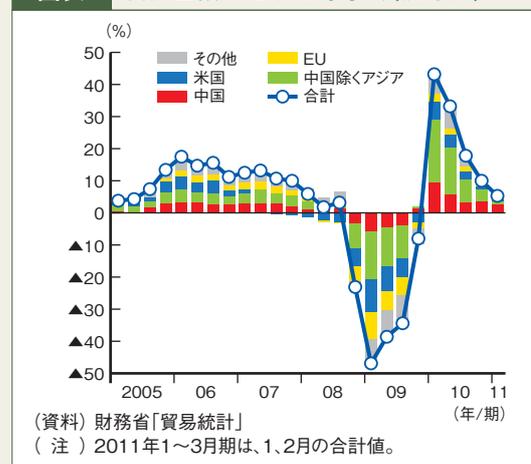
貿易統計では、輸出・輸入ともに金額や数量の実数に併せて、金額・価格・数量の指数も公表されています。金額には、為替相場や国際商品市況の動向に伴う価格変動分が含まれるため、わが国の輸出品の販売力を計るには数量指数をみることも重要です。

さらに、輸出・輸入ともに、「地域別」、「商品別」に詳細な情報が公表されています。したがって、どの国向けに、こういった商品の輸出が好調であるのかなどを確認することができるため、自社製品を海外市場で販売する場合など、国際ビジネスを行う上での有効な情報ツールとして活用できます。

3. わが国の輸出動向

最近のわが国における輸出金額を概観すると(図表)、2008年9月のリーマン・ショックを契機に2009年前半にかけて急速に減少したものの、2010年入り以降は前年比プラス傾向となっています。地域別では、自動車や半導体等電子部品を中心に、中国などアジア諸国向けの輸出が堅調に推移しています。

図表 輸出金額の地域別寄与度(前年比)



先行きを展望すると、2011年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」の影響から、当面東日本を中心に企業の生産活動が停滞するとみられ、わが国からの輸出金額も大きく減少すると見込まれます。さらに、国内での生産体制が復旧していく下でも、従来から海外に生産拠点を開設する動きが広がりつつあるなか、わが国の景気の足取りを展望する上で輸出動向が注目されます。

中 朋生